

二十九

あつたはるをまゝにのりて
しるしをさうとてうらやまはたか紙にのりて

いさゝかひあるにのりてまゝにのりて

あつたはるをまゝにのりて
梵天帝釈人間とてさうとて天に帝は

利天の至也或抄之字治之納云抄終し御蔵貴新文

善相云乃先くるとをりてさうとて事人の代りて

宋廷り為屈原カ作招魂詞曰帝告巫陽曰有又徒

欲輔之魂魄離散汝巫与之玉魂楚辞章句曰帝謂

天帝也巫陽神鑿餘生欲死海而封帝楚巫陽

招我魂曰東然いつととをりて別て帝人の心乃

死せるともさうとて縁あるにさうとて事人の代りて

人にもゆれん心とてさうとて事人の代りて

へまればさうとてさうとて

いさゝかひあるにのりてまゝにのりて

あつたはるをまゝにのりて

いさゝかひあるにのりてまゝにのりて

あつたはるをまゝにのりて

いさゝかひあるにのりてまゝにのりて

あつたはるをまゝにのりて

いさゝかひあるにのりてまゝにのりて

あつたはるをまゝにのりて

いさゝかひあるにのりてまゝにのりて

あつたはるをまゝにのりて

今までの... 日本紀詞... 御鑑

... 死のありしに... 存す... 御鑑

車をも... 死のありしに... 存す... 御鑑

昔も黄帝不死... 日本記... 御鑑

群臣葬... 其衣冠... 日本記... 御鑑

... 其衣冠... 日本記... 御鑑

... 其衣冠... 日本記... 御鑑

... 其衣冠... 日本記... 御鑑

... 其衣冠... 日本記... 御鑑

... 其衣冠... 日本記... 御鑑

... 其衣冠... 日本記... 御鑑

... 其衣冠... 日本記... 御鑑

... 其衣冠... 日本記... 御鑑

... 其衣冠... 日本記... 御鑑

... 其衣冠... 日本記... 御鑑

... 其衣冠... 日本記... 御鑑

... 其衣冠... 日本記... 御鑑

... 其衣冠... 日本記... 御鑑

... 其衣冠... 日本記... 御鑑

... 其衣冠... 日本記... 御鑑

... 其衣冠... 日本記... 御鑑

母の遺く... 葬... 長...

母の遺く... 葬... 長...

母の遺く... 葬... 長...

母の遺く... 葬... 長...

母の遺く... 葬... 長...

母の遺く... 葬... 長...

母の遺く... 葬... 長...

母の遺く... 葬... 長...

母の遺く... 葬... 長...

母の遺く... 葬... 長...

母の遺く... 葬... 長...

母の遺く... 葬... 長...

とまればや一白の心は活人と知り新道
道定特弁等より一
海女あ母多うゆかり也
今頃の信一宮路の物一すうら物一引まははは
めいしうらうら一の井とこもたれもよらう白の
は紅くもあわめ

あつたにたらのうがも任のつ白今うゆかり
まゝのつた入るら一筆は思ふあり也
海一筆は一任のつ京とて白海女の事とこれ
も海女の何事にもたれもまをせし
それの海女はまはれ事まへて
とてまをせし一海女のまはれ事まへて

おのこ

海女の心は一宮路の物一任のつ白今うゆかり
まゝのつた入るら一筆は思ふあり也
海一筆は一任のつ京とて白海女の事とこれ
も海女の何事にもたれもまをせし
それの海女はまはれ事まへて
とてまをせし一海女のまはれ事まへて

天邊よりうははりて四方の河を流す竹根をよき
女房達よきとまへし水は流すもよき
にたれし海女の事とてまへし

うらあつちりーと申すは海舟のやうなる心とて、
そつちりーとて、
すけりー海舟の心申すは、
あつちりーとて、

あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、

あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、

あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、

あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、

あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、

あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、

あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、
あつちりーとて、

いふまでもなく世にあらはしつゝ、
さうぢやないか。

ついでに、わが子にうけつて、
さうぢやないか。

さうぢやないか。かゝる事、
さうぢやないか。

さうぢやないか。さうぢやないか。
さうぢやないか。

さうぢやないか。さうぢやないか。
さうぢやないか。

さうぢやないか。さうぢやないか。
さうぢやないか。

さうぢやないか。さうぢやないか。
さうぢやないか。

さうぢやないか。さうぢやないか。
さうぢやないか。

さうぢやないか。さうぢやないか。
さうぢやないか。

さうぢやないか。さうぢやないか。
さうぢやないか。

さうぢやないか。さうぢやないか。
さうぢやないか。

さうぢやないか。さうぢやないか。
さうぢやないか。

さうぢやないか。さうぢやないか。
さうぢやないか。

さうぢやないか。さうぢやないか。
さうぢやないか。

さうぢやないか。さうぢやないか。
さうぢやないか。

さうぢやないか。さうぢやないか。
さうぢやないか。

波の音を我初めの海舟の音とてしるべきなり
海舟の音

舟の音とてしるべきなり
舟の音

舟の音とてしるべきなり
舟の音

舟の音とてしるべきなり
舟の音

舟の音とてしるべきなり
舟の音

舟の音とてしるべきなり
舟の音

舟の音とてしるべきなり

舟の音とてしるべきなり
舟の音

舟の音とてしるべきなり
舟の音

舟の音とてしるべきなり
舟の音

舟の音とてしるべきなり
舟の音

舟の音とてしるべきなり
舟の音

舟の音とてしるべきなり
舟の音

さらさら〜行〜〜〜
我も又〜も〜も〜
はう〜も〜も〜も〜
あり〜も〜も〜も〜
い〜事〜の〜
ほ〜も〜も〜も〜
や〜の〜も〜も〜
如〜水〜之〜急〜須〜偏〜救〜岸〜
わ〜ゆ〜ら〜海〜舟〜の〜舟〜
河〜舟〜も〜も〜も〜
ふ〜も〜も〜も〜
あ〜も〜も〜も〜

如 淵 水 之 急 須 偏 救 岸 之 人 行 由 濟 爲 心 又 且 舟 者 難 入 河 也

ふ〜も〜も〜も〜
あ〜も〜も〜も〜
い〜も〜も〜も〜
か〜の〜母〜の〜
あ〜の〜の〜
文〜の〜
あ〜の〜
い〜の〜

礼の節は...
美らなりと...
流る也

海...
川末の...
かろき...

平太...
小...
へ...
通...
海...
う...
う...

昔...
十...
か...
す...
い...
い...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...

わんちうとて

ふんちうとて... 是れ父母の... 是れ父母の...

是れ父母の... 是れ父母の...

是れ父母の... 是れ父母の...

是れ父母の... 是れ父母の...

是れ父母の... 是れ父母の...

是れ父母の... 是れ父母の...

是れ父母の... 是れ父母の...

是れ父母の... 是れ父母の...

是れ父母の... 是れ父母の...

是れ父母の... 是れ父母の...

是れ父母の... 是れ父母の...

是れ父母の... 是れ父母の...

是れ父母の... 是れ父母の...

是れ父母の... 是れ父母の...

是れ父母の... 是れ父母の...

是れ父母の... 是れ父母の...

是れ父母の... 是れ父母の...

是れ父母の... 是れ父母の...

是れ父母の... 是れ父母の...

是れ父母の... 是れ父母の...

後物のあきふしに... 皇太子水日式... 九月廿日... 其日別一駄... 二駄... 三駄... 又... 今案氷物... 今物徳... 中交...

一品... 一駄... 右... 左... 一品... 一駄... 右... 左... 一品... 一駄... 右... 左...

一品... 一駄... 右... 左... 一品... 一駄... 右... 左... 一品... 一駄... 右... 左... 一品... 一駄... 右... 左...

一品... 一駄... 右... 左... 一品... 一駄... 右... 左... 一品... 一駄... 右... 左... 一品... 一駄... 右... 左...

かむいらいさく一帯の二谷にまじりてしりかへん
まじりてしりかへん
まじりてしりかへん
まじりてしりかへん

権記

この次身とあまみさくら女に交ひてしりかへん
はし小等ね像しあまみさくらにまじりてしりかへん
あり又、鶴女房 障子のうちまじりてしりかへん
まじりてしりかへん

まじりてしりかへん
まじりてしりかへん
まじりてしりかへん
まじりてしりかへん

まじりてしりかへん
まじりてしりかへん
まじりてしりかへん
まじりてしりかへん

まじりてしりかへん
まじりてしりかへん
まじりてしりかへん
まじりてしりかへん

まじりてしりかへん
まじりてしりかへん
まじりてしりかへん
まじりてしりかへん

まじりてしりかへん
まじりてしりかへん
まじりてしりかへん
まじりてしりかへん

まじりてしりかへん
まじりてしりかへん
まじりてしりかへん
まじりてしりかへん

まじりてしりかへん
まじりてしりかへん
まじりてしりかへん
まじりてしりかへん

まじりてしりかへん
まじりてしりかへん
まじりてしりかへん
まじりてしりかへん

おはせさくら ー くらひのりから半世のあはれから ー ありふれば
あそぶふり ー 子あはれ あそぶふり ー 子あはれ

あそぶふり ー 子あはれ あそぶふり ー 子あはれ

あそぶふり ー 子あはれ あそぶふり ー 子あはれ

あそぶふり ー 子あはれ あそぶふり ー 子あはれ

あそぶふり ー 子あはれ あそぶふり ー 子あはれ

あそぶふり ー 子あはれ あそぶふり ー 子あはれ

あそぶふり ー 子あはれ あそぶふり ー 子あはれ

あそぶふり ー 子あはれ あそぶふり ー 子あはれ

あそぶふり ー 子あはれ あそぶふり ー 子あはれ

あそぶふり ー 子あはれ あそぶふり ー 子あはれ

あそぶふり ー 子あはれ あそぶふり ー 子あはれ

あそぶふり ー 子あはれ あそぶふり ー 子あはれ

あそぶふり ー 子あはれ あそぶふり ー 子あはれ

あそぶふり ー 子あはれ あそぶふり ー 子あはれ

あそぶふり ー 子あはれ あそぶふり ー 子あはれ

あそぶふり ー 子あはれ あそぶふり ー 子あはれ

あそぶふり ー 子あはれ あそぶふり ー 子あはれ

あそぶふり ー 子あはれ あそぶふり ー 子あはれ

あそぶふり ー 子あはれ あそぶふり ー 子あはれ

かゝるにやうな物にこそはかゝるやうな事なすべし
と云ふは、いかにせうとせよとあり、又、傍に、いかに
白、中、ま、く、り、と

と云ふに、う、く、ま、り、し、中、ま、の、ま、り、の、事

と云ふに、い、ち、ろ、も、中、ま、の、ま、り、の、事、と、云、ふ、は、

物、に、ま、り、も、ま、り、也、海、の、ま、り、の、事、と、云、ふ、は、

と、云、ふ、は、中、ま、の、ま、り、の、事、と、云、ふ、は、

の、事、と、云、ふ、は、

と、云、ふ、は、

と、云、ふ、は、

と、云、ふ、は、

と、云、ふ、は、

と、云、ふ、は、

と、云、ふ、は、

と、云、ふ、は、

と、云、ふ、は、

と、云、ふ、は、

と、云、ふ、は、

と、云、ふ、は、

と、云、ふ、は、

と、云、ふ、は、

と、云、ふ、は、

しあつていふしうきつらぬおかしうすゝめ
とらつていふしうきつらぬおかしうすゝめ
おかしうすゝめ

一葉のうらみはしるし事おのまじい

ありしうらみはしるし事おのまじい

しるし事おのまじい

しるし事おのまじい

しるし事おのまじい

しるし事おのまじい

しるし事おのまじい

しるし事おのまじい

しるし事おのまじい

しるし事おのまじい

しるし事おのまじい

しるし事おのまじい

しるし事おのまじい

しるし事おのまじい

しるし事おのまじい

しるし事おのまじい

しるし事おのまじい

しるし事おのまじい

しるし事おのまじい

しるし事おのまじい

このくちをいれぬい... 一品の文の中交のりきしを

あつたあつた... 一品の文の中交のりきしを... 一品の文の中交のりきしを

大御のりきし... 一品の文の中交のりきしを

小御のりきし... 一品の文の中交のりきしを

まゝのりきし... 一品の文の中交のりきしを

し... 一品の文の中交のりきしを

一... 一品の文の中交のりきしを

く... 一品の文の中交のりきしを

う... 一品の文の中交のりきしを

う... 一品の文の中交のりきしを

一品の文の中交のりきしを

う... 一品の文の中交のりきしを

う... 一品の文の中交のりきしを

う... 一品の文の中交のりきしを

う... 一品の文の中交のりきしを

う... 一品の文の中交のりきしを

う... 一品の文の中交のりきしを

う... 一品の文の中交のりきしを

う... 一品の文の中交のりきしを

う... 一品の文の中交のりきしを

う... 一品の文の中交のりきしを

半とがうらふくわのすくすく白のまじり
別腹さんうとかんは也

おはら母とじい海軍の母とるる
その女もいふたー海軍の親からしり
物も交じり海軍を白紙おひ新とるる

あししー 中文の句

のくやうふの所らりも也
いふくー中文の句とるる

いふくー中文の句とるる
いふくー中文の句とるる

いふくー中文の句とるる
いふくー中文の句とるる

いふくー中文の句とるる

いふくー中文の句とるる
いふくー中文の句とるる

いふくー中文の句とるる
いふくー中文の句とるる

いふくー中文の句とるる
いふくー中文の句とるる

いふくー中文の句とるる
いふくー中文の句とるる

いふくー中文の句とるる
いふくー中文の句とるる

世の川一古也終一のうとけにらぬにほいでりか
事ありあへり

海軍のこゝろをさへ又十意のきもく
心算の女をさへしはねしをて

いそぎのうかき一急修のがひらる事あり
かろりも印一うく一物修の女をさへし

いそぎのうかき一急修のがひらる事あり
かろりも印一うく一物修の女をさへし

いそぎのうかき一急修のがひらる事あり
かろりも印一うく一物修の女をさへし

いそぎのうかき一急修のがひらる事あり
かろりも印一うく一物修の女をさへし

いそぎのうかき一急修のがひらる事あり
かろりも印一うく一物修の女をさへし

いそぎのうかき一急修のがひらる事あり
かろりも印一うく一物修の女をさへし

いそぎのうかき一急修のがひらる事あり
かろりも印一うく一物修の女をさへし

いそぎのうかき一急修のがひらる事あり
かろりも印一うく一物修の女をさへし

いそぎのうかき一急修のがひらる事あり
かろりも印一うく一物修の女をさへし

いそぎのうかき一急修のがひらる事あり
かろりも印一うく一物修の女をさへし

行又

後わの秋と見え候へどもまだりある也

世の世の自の心海系とあるはくありさすも世の人

たれりてくも文書ののちりてくもさつて候也

文交の如く候へり候も一候も一候も一候も一候も一候も

の意の候へり候も一候も一候も一候も一候も一候も

候も一候も一候も一候も一候も一候も

候も一候も一候も一候も一候も一候も

候も一候も一候も一候も一候も一候も

候も一候も一候も一候も一候も一候も

候も一候も一候も一候も一候も一候も

候も一候も一候も一候も一候も一候も

候も一候も一候も一候も一候も一候も

おめがたし 杖のうらりー 書つたといひのつたし

いまをさうさしー 白のまじり 目もいふし つか

さうさめさしー 白のまじり せんのは

被たのまじり 白のまじり と思つて 白のまじり 花のまじり

おつー 我とこれや 井

さうさしー 白のまじり 入らまじり 風流のまじり

おつー 然れども 白のまじり 入らまじり ともいふし

おつー 然れども 白のまじり 入らまじり ともいふし

おつー 然れども 白のまじり 入らまじり ともいふし

おつー 然れども 白のまじり 入らまじり ともいふし

おつー 然れども 白のまじり 入らまじり ともいふし

おつー 然れども 白のまじり 入らまじり ともいふし

おつー 然れども 白のまじり 入らまじり ともいふし

おつー 然れども 白のまじり 入らまじり ともいふし

おつー 然れども 白のまじり 入らまじり ともいふし

おつー 然れども 白のまじり 入らまじり ともいふし

おつー 然れども 白のまじり 入らまじり ともいふし

おつー 然れども 白のまじり 入らまじり ともいふし

おつー 然れども 白のまじり 入らまじり ともいふし

おつー 然れども 白のまじり 入らまじり ともいふし

おつー 然れども 白のまじり 入らまじり ともいふし

おつー 然れども 白のまじり 入らまじり ともいふし

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

こふつ、花くらげ

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、

述而論難 平井有恒著

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、

指氣針見

將編年略小論

遺山居

山崎と云

山崎と云

山崎と云

山崎と云

山崎と云 山崎と云 山崎と云 山崎と云

山崎と云 山崎と云 山崎と云 山崎と云

山崎と云 山崎と云 山崎と云 山崎と云

山崎と云 山崎と云 山崎と云 山崎と云

山崎と云 山崎と云 山崎と云 山崎と云

山崎と云 山崎と云 山崎と云 山崎と云

山崎と云 山崎と云 山崎と云 山崎と云

山崎と云 山崎と云 山崎と云 山崎と云

山崎と云 山崎と云 山崎と云 山崎と云

山崎と云 山崎と云 山崎と云 山崎と云

山崎と云 山崎と云 山崎と云 山崎と云

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

こゝろをいかにしむ

一ノ五ノトク

一ノ五ノトク

コトク

コトク

コトク

コトク

コトク

コトク

コトク

コトク

コトク

コトク

コトク

コトク

コトク

コトク

コトク

コトク

コトク

コトク

コトク

コトク

コトク

コトク

コトク

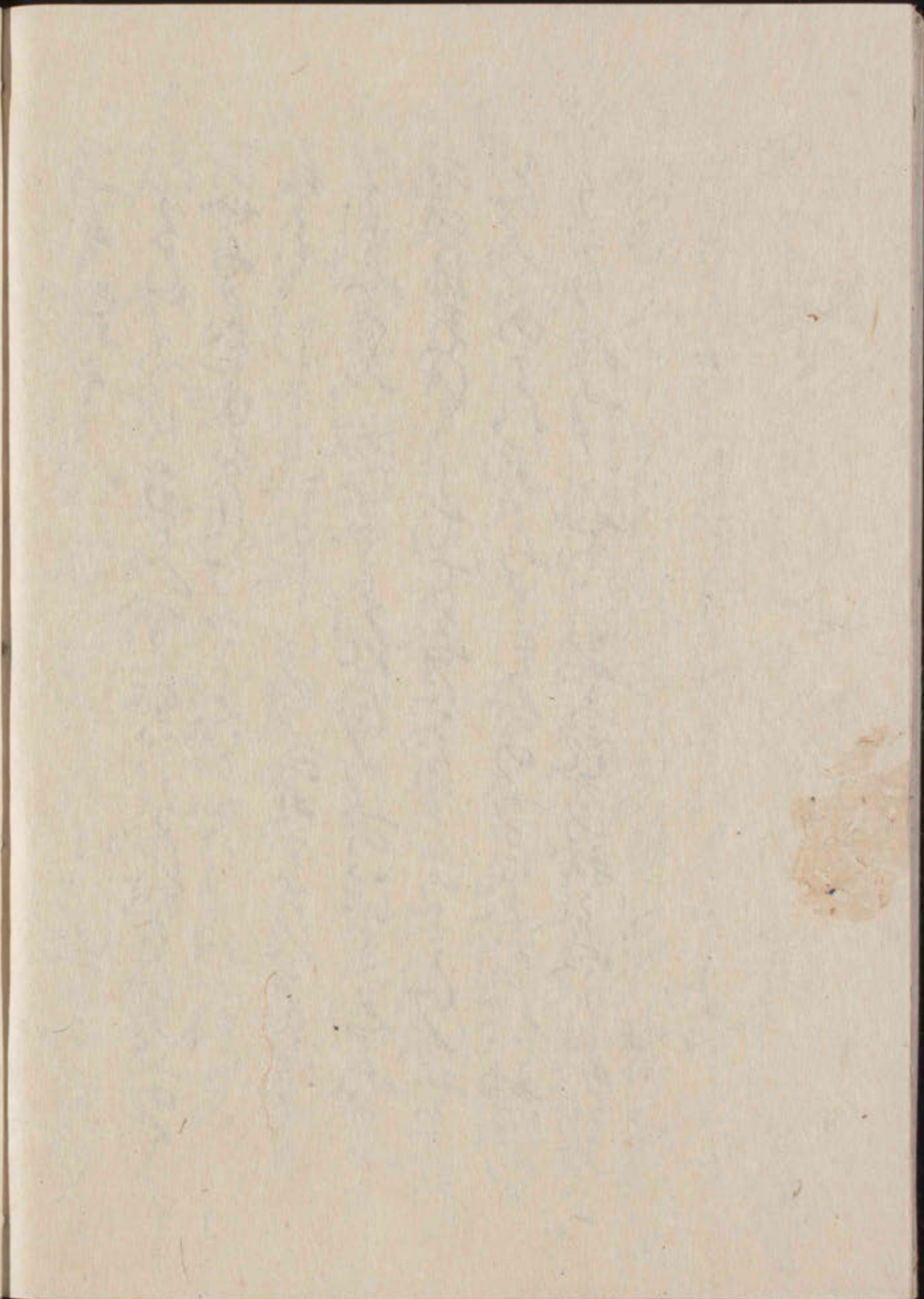
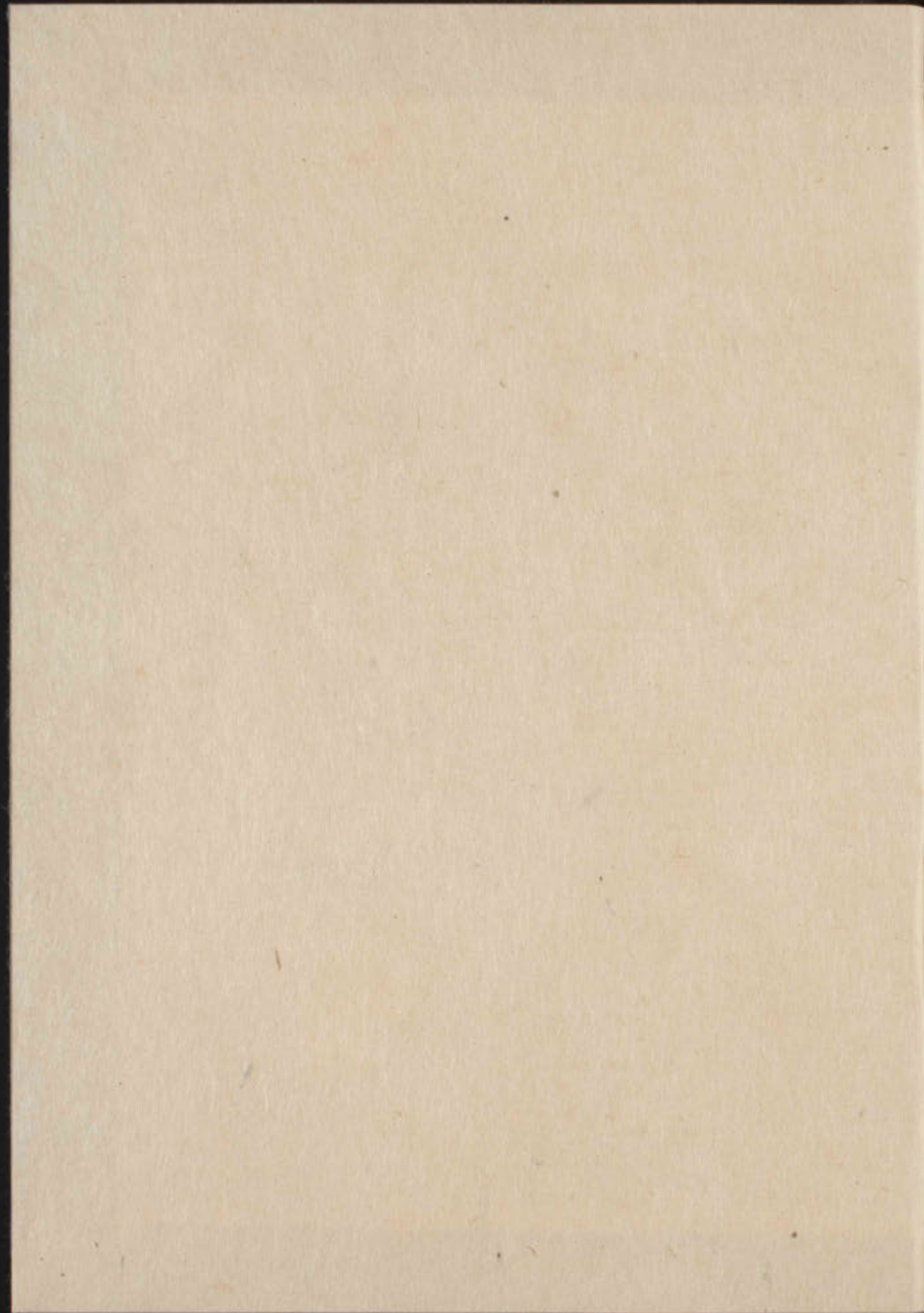
木ノ下ニて

日ノ光ニ照ルニ
草木ノ影ニシテ
静寂ノ中ニ
ありて
心ヲ静メ
神ヲ清メ
氣ヲ養フ
事ヲ成ス
此ノ道也
一陽始ニ
陰ノ中ニ
ありて
陽ノ氣ヲ
養フ
事ヲ成ス
此ノ道也
一陰始ニ
陽ノ中ニ
ありて
陰ノ氣ヲ
養フ
事ヲ成ス
此ノ道也
一陽始ニ
陰ノ中ニ
ありて
陽ノ氣ヲ
養フ
事ヲ成ス
此ノ道也
一陰始ニ
陽ノ中ニ
ありて
陰ノ氣ヲ
養フ
事ヲ成ス
此ノ道也

心ノ静也

心ノ静ニシテ
神ヲ清メ
氣ヲ養フ
事ヲ成ス
此ノ道也
一陽始ニ
陰ノ中ニ
ありて
陽ノ氣ヲ
養フ
事ヲ成ス
此ノ道也
一陰始ニ
陽ノ中ニ
ありて
陰ノ氣ヲ
養フ
事ヲ成ス
此ノ道也
一陽始ニ
陰ノ中ニ
ありて
陽ノ氣ヲ
養フ
事ヲ成ス
此ノ道也
一陰始ニ
陽ノ中ニ
ありて
陰ノ氣ヲ
養フ
事ヲ成ス
此ノ道也

抄 晴谷金



III X
3
30